

平成29年度公立高等学校
みやぎ学力状況調査 **概要**
分析結果報告書

I	調査の概要	P. 1
II	調査結果の概要と分析	P. 2
	1 学力状況に関する調査	
	2 教科に関する調査の結果分析と改善の方向	
	3 学習状況に関する調査	
	4 「震災後の心身の健康」、「志教育」等に関する調査	
III	学力向上に向けた今後の取組	P.22

平成29年11月
宮城県教育委員会

I 調査の概要

1. 学力状況に関する調査

- (1) 目的 生徒の学力状況を把握し、各学校における学習指導及び進路指導の改善に役立てる。
- (2) 調査対象 公立（県立・仙台市立・石巻市立）高等学校 75校
2年生 14,531人
- (3) 実施期間 平成29年7月3日（月）から7月10日（月）までの間、各学校で実施
- (4) 実施内容
- ① 実施教科
- ・国語，数学，英語の3教科
 - ・高校1年次に学習した内容の基礎・基本と思考力・応用力を問う問題で構成し，平均正答率を50%と設定
 - ・各教科，共通問題に加え学校選択問題を設定
※学校選択型A問題（A問題）は知識・理解等を問う基礎的・基本的な内容の設問
※学校選択型B問題（B問題）は思考力・表現力等を問う発展的・応用的な内容の設問
- ② 実施人数
- ・国語 13,987人（A問題選択53校6,751人，B問題選択31校7,236人）
 - ・数学 13,999人（A問題選択57校7,634人，B問題選択27校6,365人）
 - ・英語 14,000人（A問題選択56校7,366人，B問題選択28校6,634人）
- ※学校数は全日制本校70校，定時制11校，分校・分校舎3校の計84校として集計

2. 学習状況等に関する調査

- (1) 目的 生徒の学習状況等を把握し、各学校における学習指導及び進路指導の改善に役立てる。
- (2) 調査対象 公立（県立・仙台市立・石巻市立）高等学校 計75校
1年生 約14,826人， 2年生 約14,531人
- (3) 実施期間 平成29年7月3日（月）から7月10日（月）までの間、各学校で実施
- (4) 実施内容
- ① 調査内容 生徒の学習・生活状況，震災後の心身の健康状況及び「志教育」等に係る質問紙調査
- ② 実施人数 1年生 14,418人（回収率 97.2%）
2年生 14,006人（回収率 96.4%）

II 調査結果の概要と分析

1 学力状況に関する調査

(1) 概況

国語 共通問題の正答率は、49.6%（前年度55.3%）

○ 言語に関する基礎的・基本的な知識内容に偏りが見られる。また、まとまりのある文章を読む際、文言を吟味し、文脈を踏まえて内容を的確に捉える力が不足している。

- ・ 言語事項では、日本語の適切な表現、文法に関する知識の定着はある程度見られるものの、基本的な漢字の読み書き、慣用句、敬語についての理解は不十分である。
- ・ 現代文では、文脈に即して内容を理解する力、心情の変化を捉えていく力に、古典では、基本的な語句や文法を踏まえ、文章内容を正しく読み取る力に課題が見られる。

数学 共通問題の正答率は、48.6%（前年度48.1%）

○ 基礎的・基本的な知識の定着度に大きな差が見られ、二極化傾向にある。繰り返し基礎事項を確認するなどし、知識・技能の定着を徹底する必要がある。

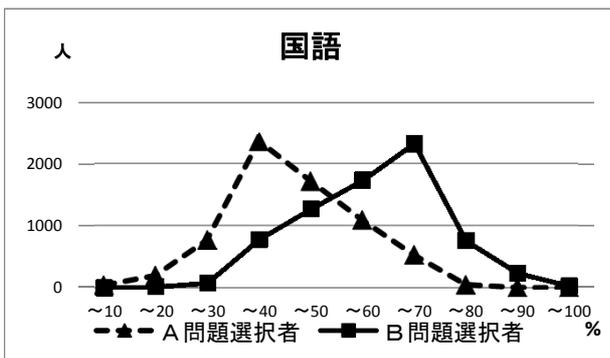
- ・ 因数分解を利用した二次方程式の解法、ヒストグラムと箱ひげ図を対応させる問題については、一定の定着が見られる。
- ・ 問題文から必要な条件を読み取り、必要な公式や定理を活用して立式する力に課題が見られる。

英語 共通問題の正答率は、44.1%（前年度48.2%）

○ 基礎的・基本的な語彙や表現における知識の不足から、英語を適切に運用できない生徒が多い。また、読み取った内容を整理する力が弱いため、正答率が上がらない生徒も多い。

- ・ 代名詞や分詞、不定詞などの知識については定着が見られる。
- ・ リスニングや資料読み取りで、限られた時間内で適切な情報を把握する力に課題が見られる。

図1-1 共通問題正答率の度数分布図



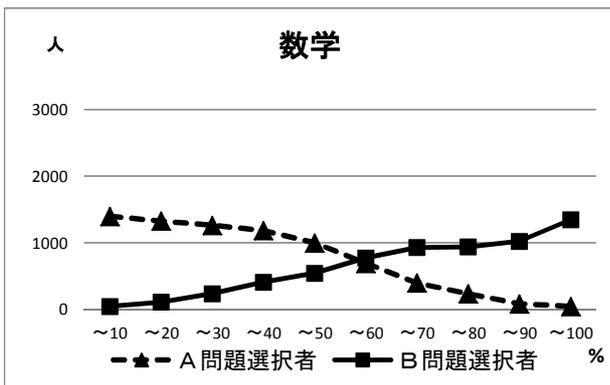
国語

<正答率>

A問題選択者	共通問題:	41.5%
	全問題:	41.4%
B問題選択者	共通問題:	57.2%
	全問題:	54.5%

<概況>

・ A問題選択者とB問題選択者の共通問題での正答率の比較においては、15.7%の差が見られた。国語は他教科と比べB問題選択者の正答率80%以上の割合が低いことから、基礎的・基本的な知識や理解を深めるのはもちろんのこと、文言を吟味したり、的確に読み取る能力を身に付けさせる必要がある。



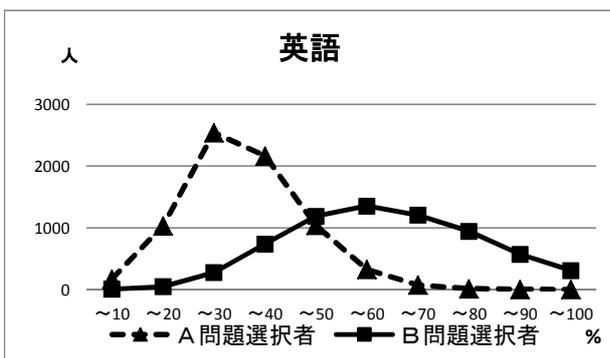
数学

<正答率>

A問題選択者	共通問題:	32.6%
	全問題:	25.6%
B問題選択者	共通問題:	67.4%
	全問題:	43.6%

<概況>

・ A問題選択者とB問題選択者の共通問題での正答率の比較においては、34.8%の差が見られ、3教科の中で最も大きな差である。A問題選択者で最も高い度数を示しているのが正答率10%未満であることから、基礎的・基本的な知識・技能の定着を徹底する必要がある。



英語

<正答率>

A問題選択者	共通問題:	31.3%
	全問題:	30.9%
B問題選択者	共通問題:	58.3%
	全問題:	55.5%

<概況>

・ A問題選択者とB問題選択者の共通問題での正答率の比較においては27.0%の差が見られる。特に、A問題選択者では30%未満の度数が高いことから、授業における言語活動の機会を増やし、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ることが必要がある。

(2) 概況(A, B問題選択者別)

国語

A問題選択者：共通問題の正答率は、41.5%（前年度45.5%）
共通問題部分を含めた全問題の正答率は、41.4%（前年度44.9%）

B問題選択者：共通問題の正答率は、57.2%（前年度64.5%）
共通問題部分を含めた全問題の正答率は、54.5%（前年度60.7%）

○ A・B両選択者とも正答率は昨年度より下降した。B問題選択者の基本問題における正答率の下降が大きい。

数学

A問題選択者：共通問題の正答率は、32.6%（前年度29.6%）
共通問題部分を含めた全問題の正答率は、25.6%（前年度24.8%）

B問題選択者：共通問題の正答率は、67.4%（前年度69.9%）
共通問題部分を含めた全問題の正答率は、43.6%（前年度52.4%）

○ A問題選択者の基本問題の正答率は昨年度より上昇した。B問題選択者の発展・応用問題の正答率は下降した。

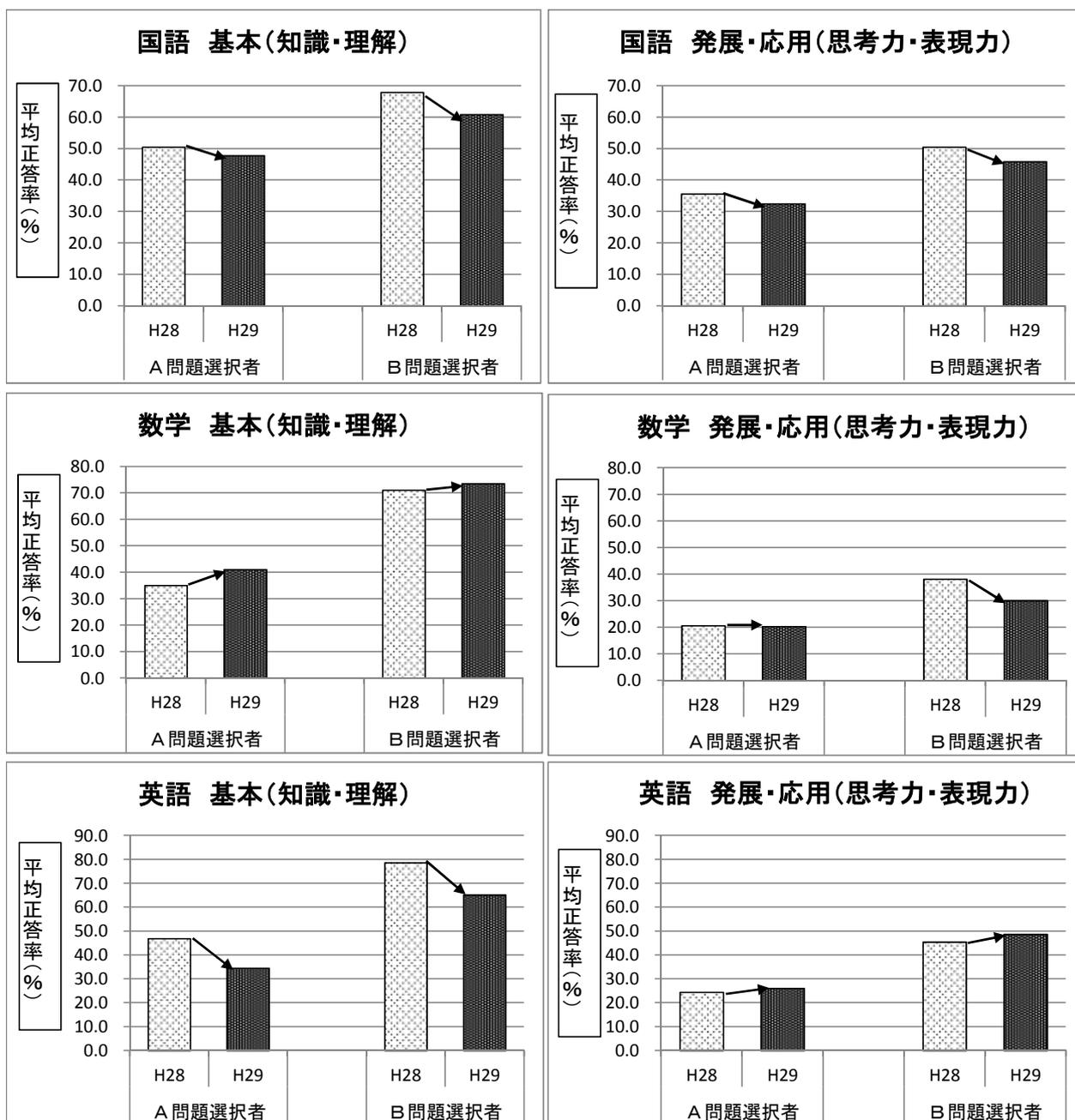
英語

A問題選択者：共通問題の正答率は、31.3%（前年度35.8%）
共通問題部分を含めた全問題の正答率は、30.9%（前年度34.8%）

B問題選択者：共通問題の正答率は、58.3%（前年度62.5%）
共通問題部分を含めた全問題の正答率は、55.5%（前年度59.7%）

○ A・B両選択者ともに基本問題の正答率は昨年度より大きく下降した。

図1-2 A・B問題選択者別一観点別正答率



2 教科に関する調査の結果分析と改善の方向

国語

◎分析と課題 (◇…相当数の生徒ができています。 ◆…課題がある。)

<言語事項>

◇日本語の適切な表現と口語文法については、おおむね高い正答率である。

◆漢字については、熟語の書きと訓読みの正答率が低い。

◆ことわざ・慣用句、敬語についての理解がやや不十分である。

⇒ 課題1：言語に関する知識や理解を深め、社会人として必要となる言語能力を積極的に身に付けさせることに課題。

<現代文>

◇文学的な文章では、叙述に即して内容を読み取る力がある程度は身に付いている。

◆論理的な文章では、文脈を踏まえて内容を的確に把握する力が不足している。

◆論理的な文章では、文章の全体の内容を把握する力が不十分である。

⇒ 課題2：論理的な文章において、文言を吟味しながら内容を的確に読み取る力、文脈や文章全体の内容を的確に捉える力に課題。

<古典>

◇古文での動詞の活用、漢文での返り点の用法等、基本的な文法の知識は身に付いている。

◆古文・漢文ともに文章の大筋については把握できても、語彙力の不足が原因で、人物の関係や場面の細部を正確に読み取ることが十分ではない。

⇒ 課題3：基礎・基本の知識を習得させ、それを活用して正確に本文内容を読み取る力を身に付けさせることに課題。



◎改善の方向

<言語事項>

①基礎的・基本的な言語事項の定着を図るためには、様々な表現に触れさせる機会を増やす必要がある。また、言語に関する知識を用いて思考したり表現したりする授業展開を工夫し、適切に言語を運用する力の向上を図る必要がある。

・漢字については、様々な文章に触れ、語句の意味の正確な知識と運用の方法を習得させる。

・ことわざや慣用句、敬語については、実際に活用する場面を提示し、意味や用例を理解させることで、具体的なイメージを伴った知識として定着させる。また、広く使われてしまっている誤用例に触れることで、正しい使用を意識させる。

・学校図書館とも連携しながら読書指導を進め、様々な表現に触れさせる。

<現代文>

②論理的な文章では、文脈に即して読み進め、論理の展開を確かめながら内容を的確に捉える力を育成する必要がある。また、文学的な文章では、叙述に即して登場人物の心情の変化を的確に捉え、内容を読み取る力が必要である。

・論理的な文章では、根拠となる表現や文言に基いて文章の内容を正しく理解する力を身に付けさせる。

・文学的な文章では、比喩表現などが意味することをきちんと踏まえながら、登場人物の心情の変化を的確に把握する方法を身に付けさせる。

・感覚に頼らず、言葉の正しい意味を根拠にして、内容を正確に読み取る姿勢と力を育成する。

<古典>

③古典を主体的に学ぼうとする意欲を高め、基礎的・基本的な知識を定着させるとともに、身に付けた知識を活用して、文章を正確に読み解く力を育成する必要がある。文章全体の構成や、文脈に即して詳細をつかませるような授業を意識し展開する必要がある。

・基本的な語句、文法事項、句法などの基礎的な知識を確実に身に付けさせるとともに、それらを基にして、文章の内容を正確に読み解く力を育成する。

・生活上での感覚ではなく、本文に根拠を求めながら読む習慣を養い、登場人物の関係や心情記述内容から正確に把握し、的確に読み取る力を身に付けさせる。

・適宜現代語訳を活用したり、古典世界の習俗等の説明を加えるなどして、古典作品の内容そのものの面白さに触れられる工夫をする。

・生徒たちが主体的に古典を読み味わうことができるよう、個人での活動やグループでの活動を学習状況に照らしながら計画的に取り入れ、生徒が自ら進んで古典に親しむ態度を育成する。

数学

◎分析と課題 (◇・・・相当数の生徒ができています。 ◆・・・課題がある。)

◇整式の計算，因数分解，二次方程式，ヒストグラムと箱ひげ図の問題については正答率が比較的高く，基本的な内容についての問題はある程度の定着がみられる。

◆二次関数のグラフや図形と計量の問題についての正答率は低く，この分野についての基本的な知識が不足している。

⇒ 課題 1：分野によって，まだ基礎・基本が定着しておらず，また式を見通す力や正しく計算する力が不十分である。

◆様々な視点から問題を考察し，必要とする複数の条件を見つけたり，場合分けをして課題解決をする問題の正答率が低い。

⇒ 課題 2：問題の本質を見つける力や，複数の視点から問題を考察する力が不足している。

◇単に一つの公式や定理を適用するような，知識・技能の習得をみる問題の正答率は高い。

◆問題文の内容（情報）を読み取り，その問題を解くために必要な公式や定理を，見通しを持って選択し，与えられた情報をもとに立式することができていない。

⇒ 課題 3：与えられた情報をもとに，問題を解決するための道筋を立て，複数の情報を多面的に捉えてそれらをまとめ，さらにそれらを活用する力が不十分である。

◆求めたものが，与えられた条件に適しているかの吟味ができていない。

◆グラフや数直線を用いて場合分けを行うことや，グラフや図，表からの情報を正しく読み取り，数式化・数値化して適切に表現し，活用することができていない。

⇒ 課題 4：グラフや数直線を用いて問題を解決していく力や，必要な情報をグラフや図，表から正しく読み取る力と，それらを表現・活用する力が不足している。



◎改善の方向

①基本的な知識・技能の定着を徹底し，与えられた条件や問題設定を正しく整理し，どの公式や定理が使えるのか，考えさせるような工夫をする。

- ・基本的な問題については，正しく計算し，最後まで正確に解く力が必要である。繰り返し基礎事項を確認し，授業内において復習する時間を設けることが求められる。
- ・公式や定理を暗記させるだけではなく，その式の成り立ちや意味を考えさせ，与えられた条件からどの公式が使えるのか考えさせる機会を設けるなど授業展開を工夫する。

②生徒が数学を活用することのよさに気づき，様々な視点から問題を考察できるよう課題学習に取り組ませ，主体的に学習活動を行えるように工夫する。

- ・具体的な事象を取り入れ，イメージを持ちながら既習事項を活用して問題を解決し，数学のよさを認識できるような工夫をする。
- ・学習場面では，ペア学習，グループ学習などを用いて，生徒同士で議論し検討する学び合いの時間を設け，多面的に考察する力を育てる。

③課題解決のために必要な数学的知識・技能を定着させるために，生徒自身が能動的に取り組むような教材や発問を工夫したり，その根拠を説明させたりする場面を増やすことで，数学的な表現力を育成する。

- ・毎回の授業において，到達目標を教員が明示するとともに，課題解決のために必要な事柄や道筋を，既習事項を基に生徒に考えさせ，事象を数学的に考察し活用する力を育成する。また，考えたことを他の生徒に対して説明・発表させたり，共有させたりする機会を設ける。
- ・授業において，振り返りの時間を設けて思考過程を再構築させると同時に，疑問に思った点を述べさせる場面を増やすことで，生徒が能動的に学習に取り組めるよう工夫する。

④グラフや数直線を用いながら問題を解決するよう意識させる。また，グラフや図，表から必要な情報を読み取り，数式化・数値化して表現させるなど，事象を様々な方向から捉え，表現・活用する力を育成する。

- ・グラフや数直線，図の有用性を認識させ，そこから読み取れる情報を数式化・数値化して表現するなど，様々な方向から事象にアプローチする機会を設けることで，多面的に事象を捉え，本質的に理解できるよう指導を工夫する。
- ・事象を具体化し，視覚的に捉えるためにICTを効果的に活用するなど，生徒が事象の変化について実感を伴って理解し，考察を深めていくことができるよう指導を工夫する。

英語

◎分析と課題

(◇…相当数の生徒ができている ◆…課題がある)

- ◇基本的な表現を用いた会話文や文章を聞き取り、その内容を理解する力が身に付いている。
- ◆二つ以上の情報を統合して処理する力が不足している。
- ◆まとまりのある文章を聞く中で、全体の流れを把握し状況や場面を理解する力が不足している。

⇒ 課題1：基本的な表現を用いた会話文や文章を聞き取り情報を的確に処理する力や、まとまりのある会話文や文章を聞いて状況や場面などのポイントを押さえながら概要を把握する力が不足している。

- ◇話すことを中心とした言語活動の中でよく使用される語彙や表現に関して定着が見られる。
- ◆高等学校で学習する語彙・熟語・文法を正しく活用する力が不十分である。
- ◆特に仮定法や時を表す副詞節、形式目的語などは定着が不十分である。
- ◆英語の文構造や語順に対する正しい知識が不足している。

⇒ 課題2：高校段階で学習する文法事項や語彙などに関する知識が不足していることから、英語を適切に運用する力についても十分ではない。

- ◇案内文から時間や曜日などの基本的な情報を探し出すことができる。
- ◆複数の情報を整理しながら読み取ることができない。
- ◆語彙や案内特有の表現に対する知識が不十分なため、詳細な情報を読み取ることができない。
- ◆別の表現に言い換えられた英文と元の情報とを結び付けることができない。

⇒ 課題3：語彙や表現における知識不足と情報処理能力の不足が原因で、目的に応じて必要な情報を探し出すことができない。

- ◆限られた時間の中でまとまった量の英文を効率よく読むことに慣れていない。
- ◆各段落の概要を理解して英文全体の流れを捉える力、読み取った内容を整理する力が不足している。

⇒ 課題4：英文全体の流れを理解しながら概要や要点を捉える力が不足している。



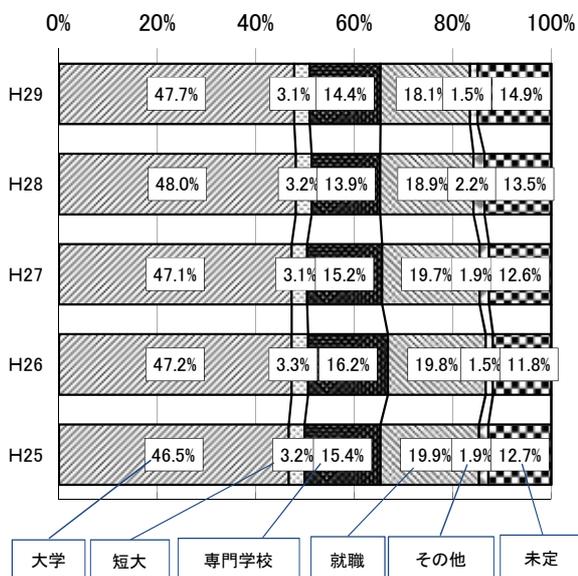
◎改善の方向

- ①教師や他の生徒の発話、あるいは様々な音声教材を聞いて、情報や考えなどを的確に理解できるようにするとともに、教師や生徒同士の英語による言語活動の機会を多く持つ。
 - ・教師の発問に答えたり、生徒同士の言語活動などを多く取り入れることで、学習した内容の定着を図りながら、情報の的確な聞き取りに慣れさせる。
 - ・教師は必要に応じて、生徒にとってわかりやすい表現を用いたり、別の表現に言い換えるなどの工夫をする。
- ②授業中の様々な場面で英語の使用機会を作り、言語活動と関連付けながら運用を通して文法事項の定着を図る。
 - ・新出の文法事項に関しては、多様な場面を想定して言語活動の機会を作り、繰り返し使用することで定着を図る。
 - ・話したり書いたりする表現活動を通して、英語特有の文構造の定着を図る。
- ③生徒にとって身近な題材を用いて、必要な情報を的確に検索したり、読み取った内容を適切に伝えたりする力を育む。
 - ・教科書教材に加え、新聞、パンフレット、ウェブサイトや広告など、様々な素材を用いて、多様な文章形式や表現に触れさせるとともに、情報の的確な読み取りに慣れさせる。
 - ・読み取った内容を伝える活動を通して、自分が知っている英語表現を使って相手にわかりやすく言い換える力を養う。
- ④様々なジャンルの英文を読む活動を通して、新たな知識を身に付けながら多様な価値観に触れることで英文を読む楽しさに気付かせ、自ら意欲的に読む姿勢を育む。
 - ・教科書教材以外にも多様な英文を読む機会を増やし、まとまった量の英文を読むことに慣れさせる。
 - ・ディスコースマーカーの働きを意識させるなど、段落のつながりに留意しながら読んだり、概要や要点を把握させるなど、目的に応じた読み方を身に付けさせる。
 - ・生徒の理解を深めるための発問を工夫する。
 - ・読んだ内容について、概要や感想、意見を書いたり話したりする活動を通して、英語で主体的に表現する力を育む。

3 学習状況に関する調査

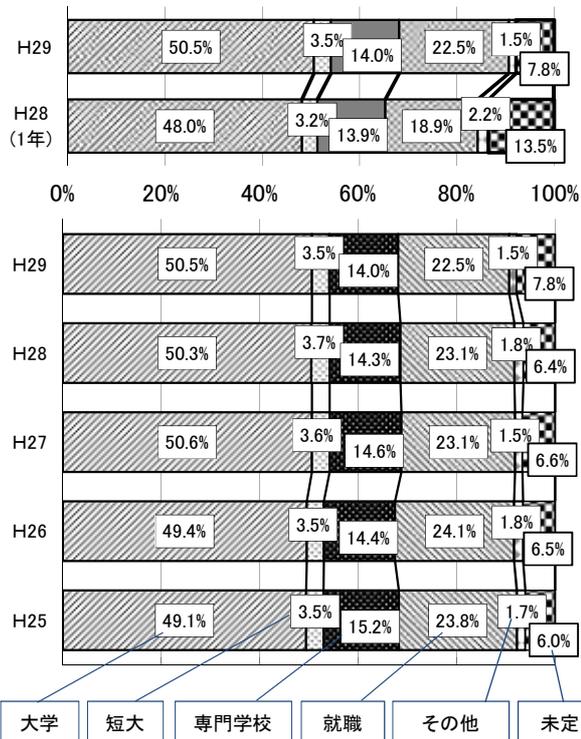
(1) 高校卒業後の進路希望(【Q1】)

図1 進路希望(1年生)



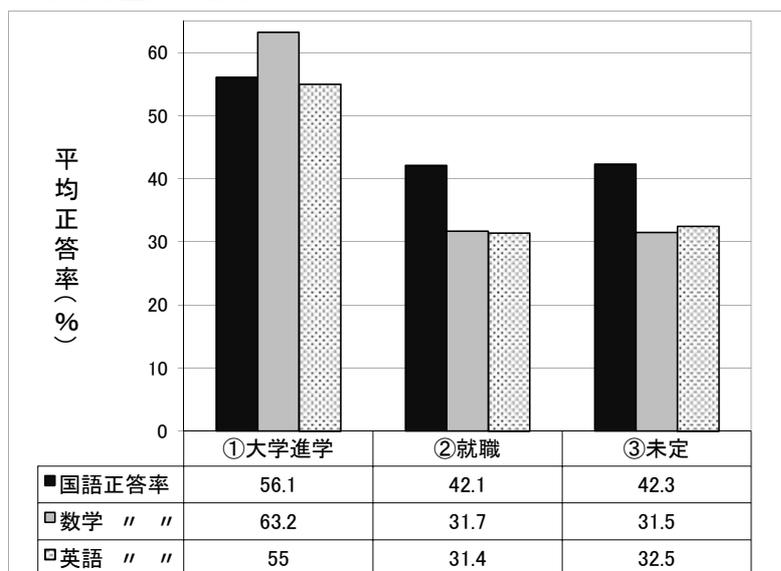
- 4年制大学と短大への進学希望者は、4年連続で50%を超えた。
- 進路希望未定者は、3年連続で増加。

図2 進路希望(2年生)



- 4年制大学への進学希望者は、3年連続で50%を超えている。
- 進路希望未定者は、1年時から5.7%減少し、1年から2年の間に進路意識が高まったことがうかがえる。

図3 進路希望別正答率

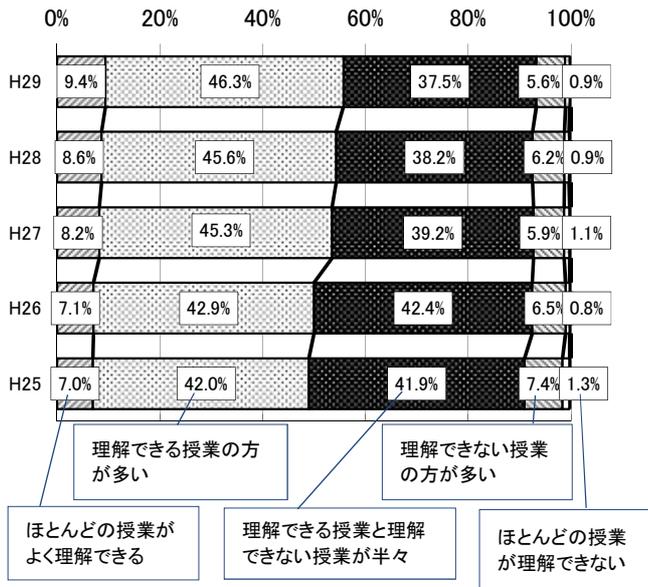


- ① 大学進学
国公立の四年制大学への進学を希望している生徒
- ② 就職
民間及び公務員への就職を希望している生徒
- ③ 未定

- 就職希望者と進路未定者の正答率はほぼ同じであるが、就職希望者及び進路未定者と大学進学希望者とを比較すると、数学では30%以上、英語では20%以上の差があり、進学希望か否かによって学習の定着度に大きな開きが出る事が分かる。

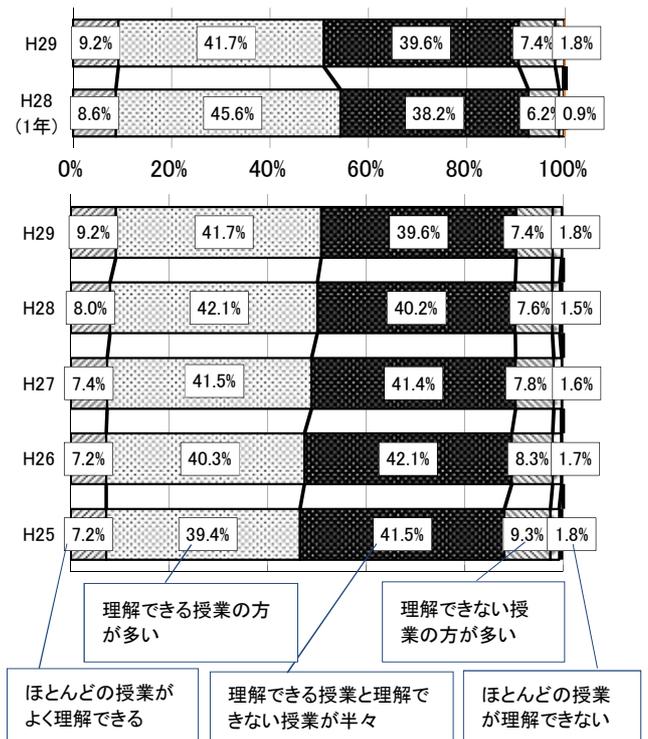
(2) 授業理解度【Q4】，家庭学習の仕方【Q13】

図4 授業理解度（1年生）



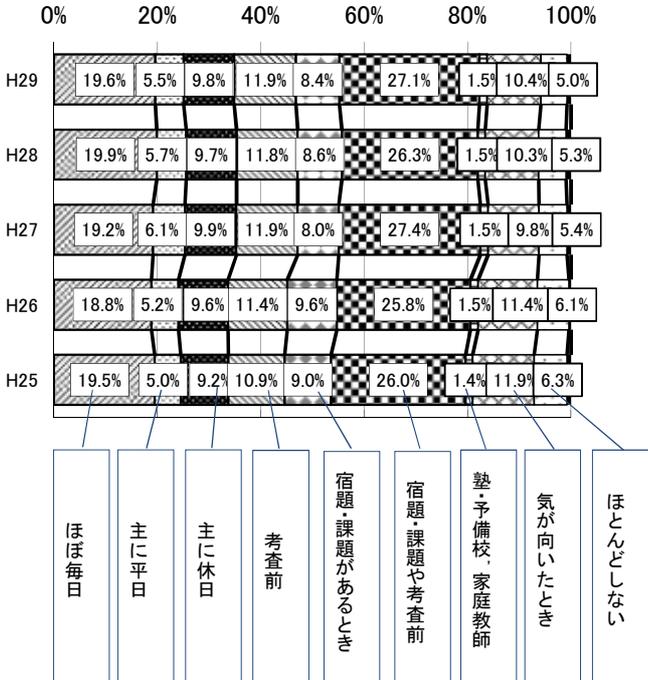
○ 授業が概ね理解できている生徒の割合は昨年に引き続きやや増加。
○ 理解できていない生徒の割合はやや減少。

図5 授業理解度（2年生）



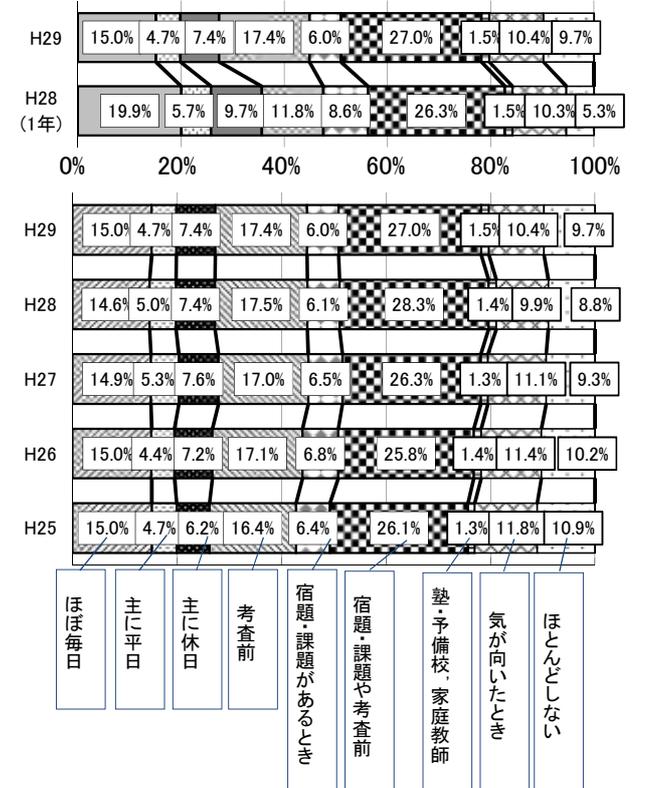
○ 授業が概ね理解できている生徒の割合は昨年に引き続き50%を超え、やや増加。
○ 授業理解度は1年時との比較においては減少。

図6 家庭学習の仕方（1年生）



○ 「宿題・課題や考査前」の割合は増加、「ほぼ毎日」、「ほとんどしない」の割合はやや減少。

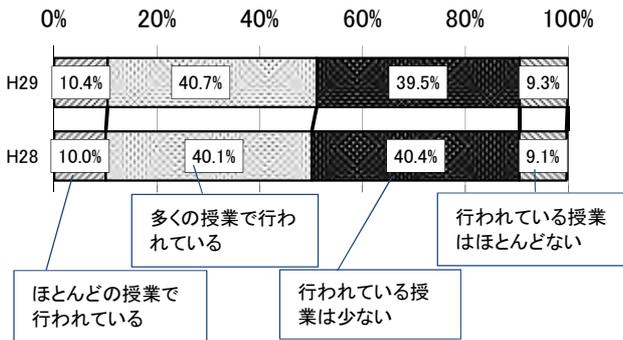
図7 家庭学習の仕方（2年生）



○ 1年では2割弱の生徒が「ほぼ毎日」と答えるが、2年になると4、5%減少し、考査前に限って学習する生徒が増加、「ほとんどしない」の割合は倍増する。この傾向は毎年見られる。

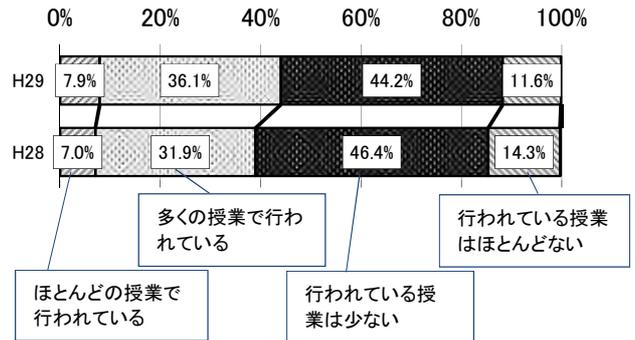
(3) 授業における学習目標の提示や振り返り【Q6】

図8 授業での学習目標の提示や振り返り（1年生）



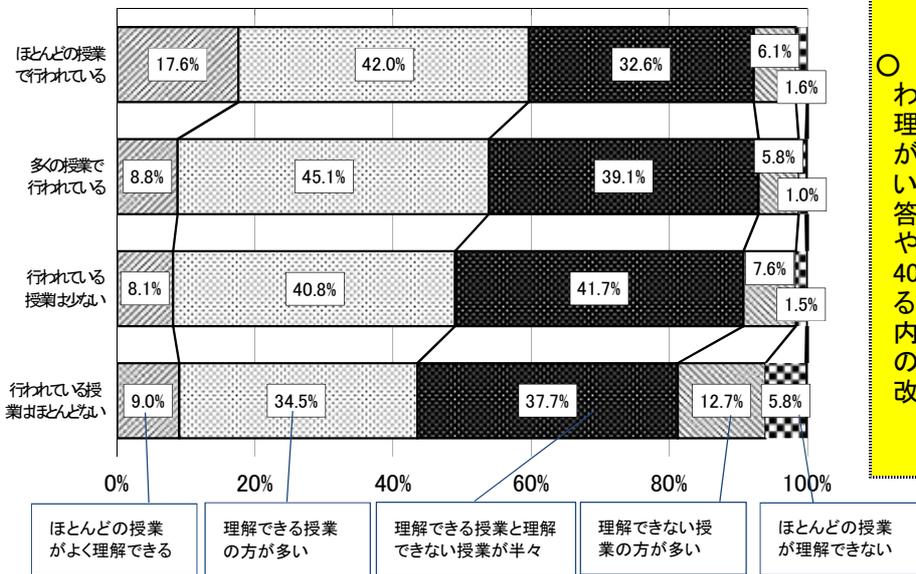
○ 「ほとんどの授業」もしくは「多くの授業」で行われている割合は今年度も5割程度にとどまっている。生徒自身が主体的に授業に臨めるよう、実施の徹底を図る必要がある。

図9 授業での学習目標の提示や振り返り（2年生）



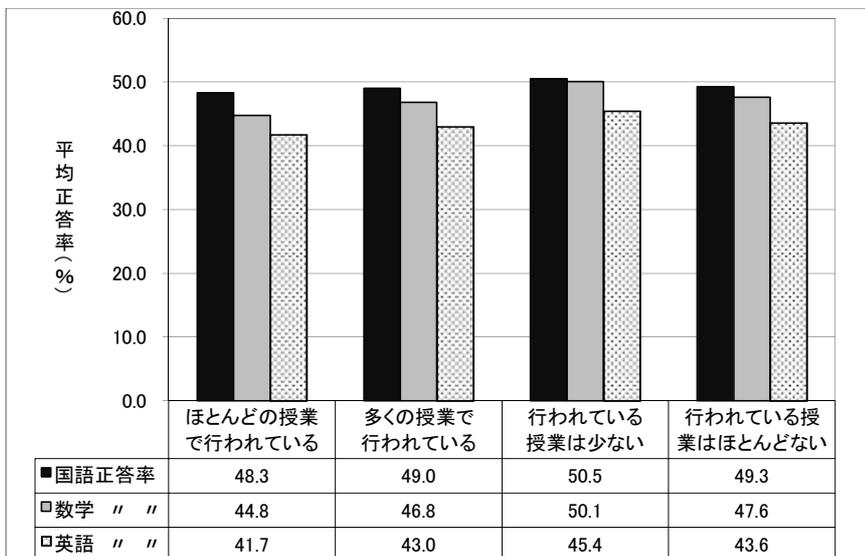
○ 「ほとんどの授業」もしくは「多くの授業」で行われている割合は昨年度よりは増えたものの、5割に届かない状況である。学年に関わらず、生徒自身が主体的に授業に臨めるよう、実施の徹底を図る必要がある。

図10 授業での学習目標の提示や振り返りと授業理解（2年生）



○ 学習目標の提示や振り返りが行われている授業ほど、生徒の授業理解度が高くなる傾向が見られるが、「理解できる授業と理解できない授業が半分くらいずつある」と回答した生徒の割合が、目標の提示や振り返りの有無に関わらず30～40%程度いることから、授業における生徒の状況観察や提出課題の内容分析等を注意深く行い、生徒の授業理解度が深まるよう、授業改善に努める必要がある。

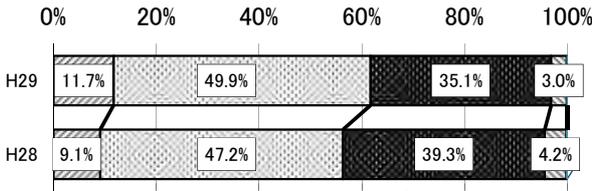
図11 授業での学習目標の提示や振り返りと正答率



○ 学習目標の提示や振り返りと正答率には、前年同様に明確な相関が見られるとは言えない。学習目標の提示や振り返りの在り方については、さらなる工夫が必要であるが、目標の提示や振り返りは、生徒の学習に対する主体性を高め、授業理解には反映されるものの、それが成果として正答率に表れるには、学習の定着を図るための工夫が必要である。

(4) 授業中に自分の考えを发表或し、ペアや小グループで話し合う時間【Q7】

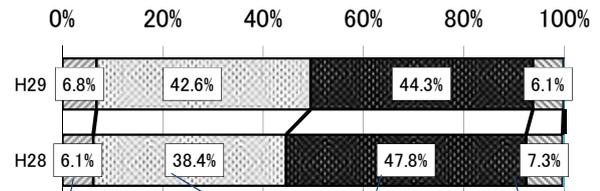
図12 授業中の意見発表や話し合い (1年生)



ほとんどの授業でそのような時間がある
 多くの授業でそのような時間がある
 そのような時間がある授業はほとんどない
 そのような時間がある授業は少ない

○ 「ほとんどの授業」及び「多くの授業」で設定している割合は増加して、60%を超えた。

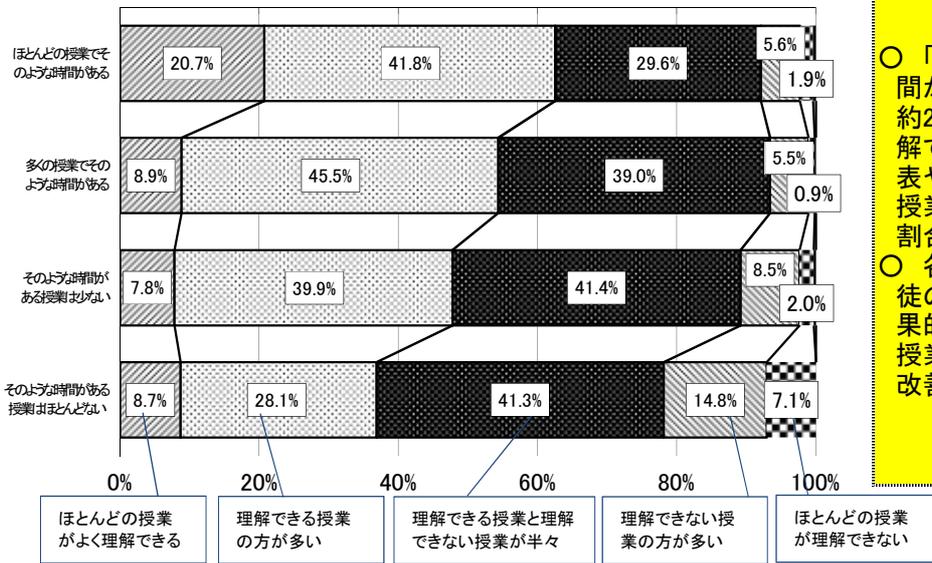
図13 授業中の意見発表や話し合い(2年生)



ほとんどの授業でそのような時間がある
 多くの授業でそのような時間がある
 そのような時間がある授業はほとんどない
 そのような時間がある授業は少ない

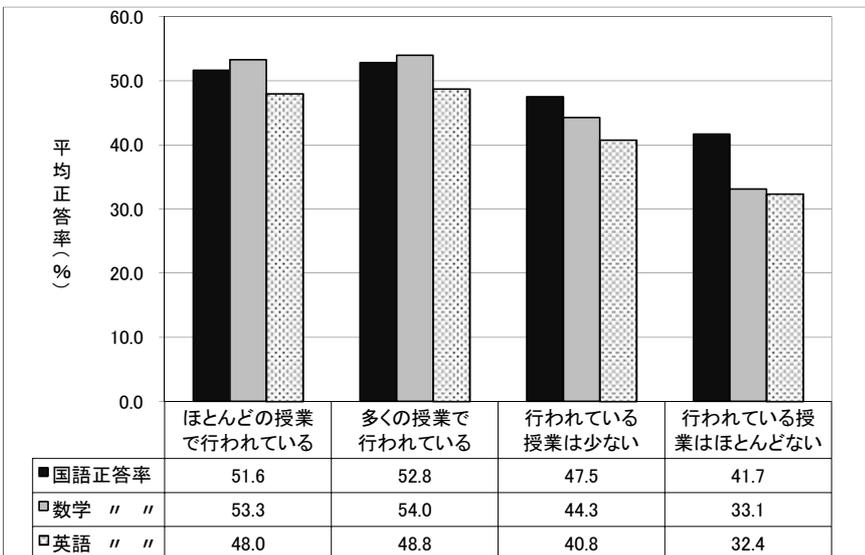
○ 「ほとんどの授業」及び「多くの授業」で設定している割合は増加して、約50%。

図14 授業中の意見発表や話し合いと授業理解(2年生)



○ 「ほとんどの授業でそのような時間がある」と回答した生徒のうち、約20%が「ほとんどの授業がよく理解できる」と回答。授業中の意見発表や話し合う時間が確保されている授業では生徒の授業理解度が高い割合を示している。
 ○ 各授業のねらいに即し、かつ、生徒の学習の定着度等を見ながら効果的に言語活動を取り入れ、生徒の授業理解が深まるよう、不断の授業改善が今後も必要である。

図15 授業中の意見発表や話し合いと正答率



○ 授業で、意見発表や話し合う活動が多く行われている場合、正答率が高い傾向が見られる。
 また、「ほとんどの授業で行われている」と回答したグループと「行われている授業はほとんどないと」回答したグループの正答率には大きな差が見られる。
 ○ 学習に対する主体的な取り組み姿勢や協働的な学びが、学力の向上につながっていると考察できる。

(5) 平日の学習時間【Q11】

図16 平日の家庭学習時間（1年生）

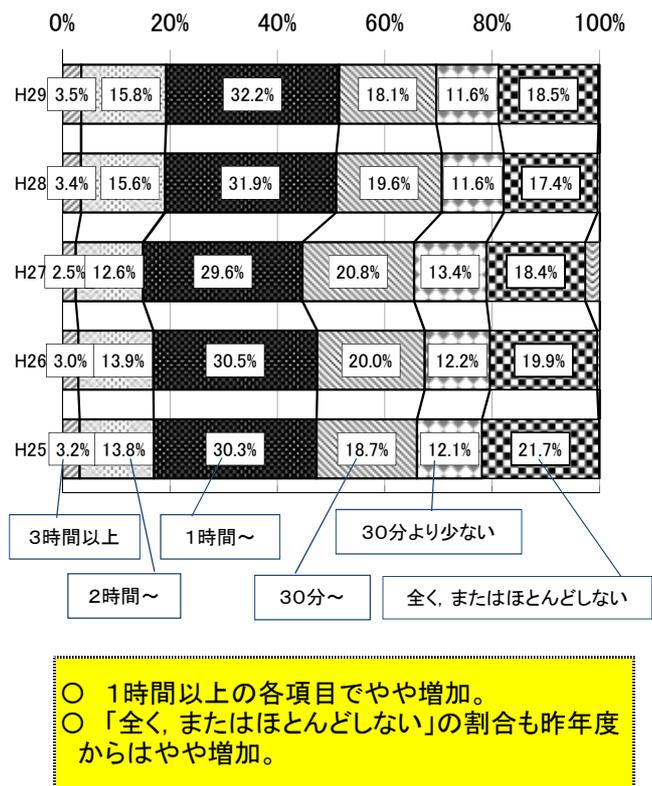


図17 平日の家庭学習時間（2年生）

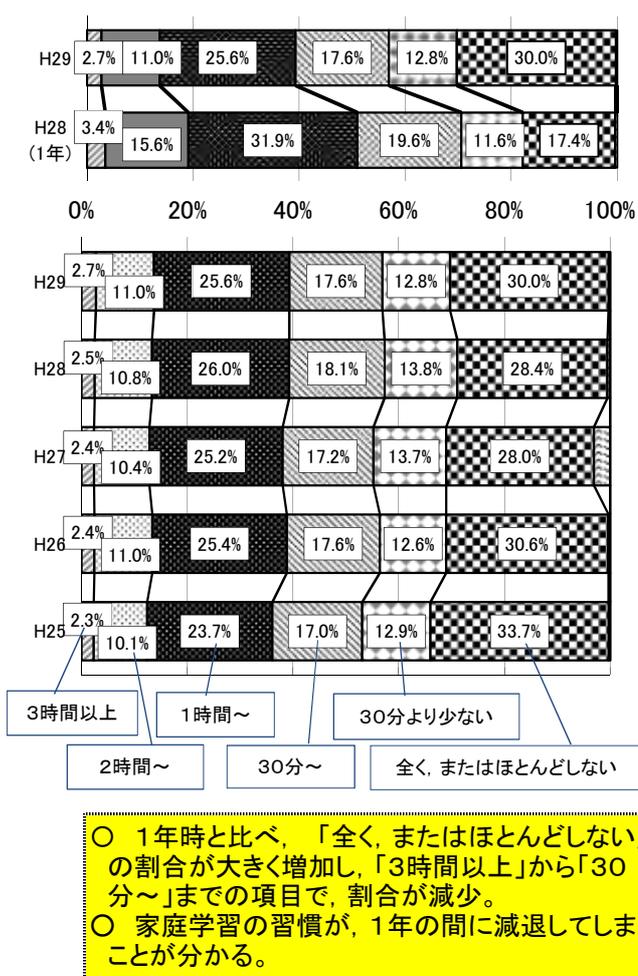
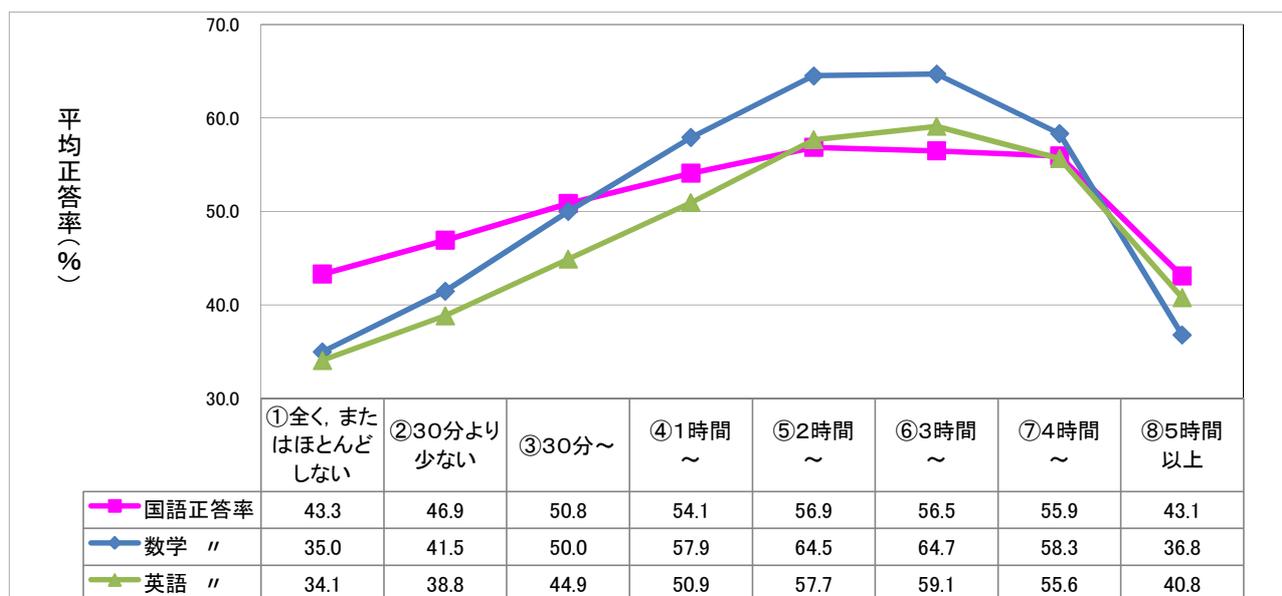


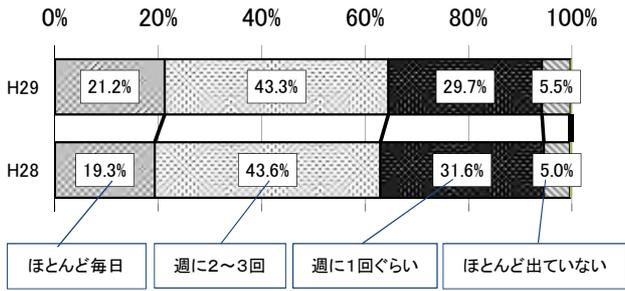
図18 家庭学習時間と正答率

→【Q11】 平日に、学校の授業時間以外にどのくらい勉強していますか



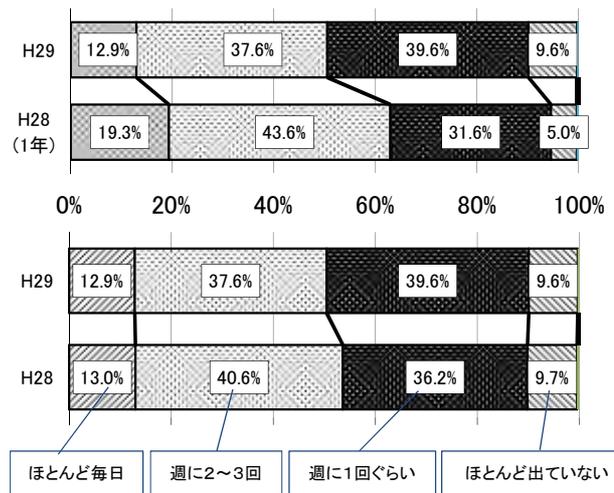
(6) 宿題・課題の頻度(【Q8】)

図19 宿題・課題が課される頻度(1年生)



○ 「ほとんど毎日」がやや増加した。

図20 宿題・課題が課される頻度(2年生)



○ 宿題や課題が課される頻度は前年度よりもやや減少し、1年時よりは大きく減少。

図21 宿題・課題が課される頻度と平日の家庭学習時間(1年生)

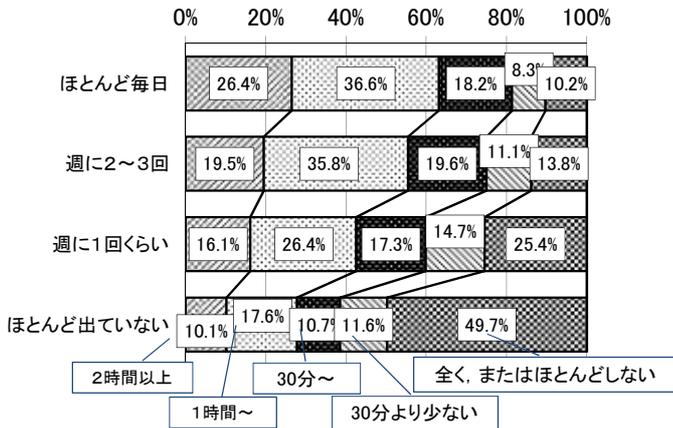
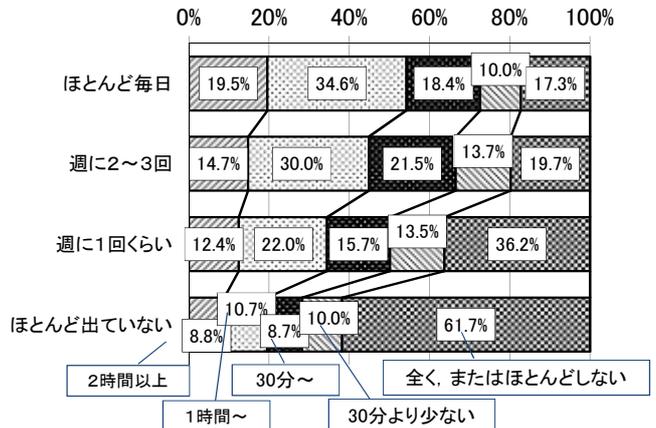


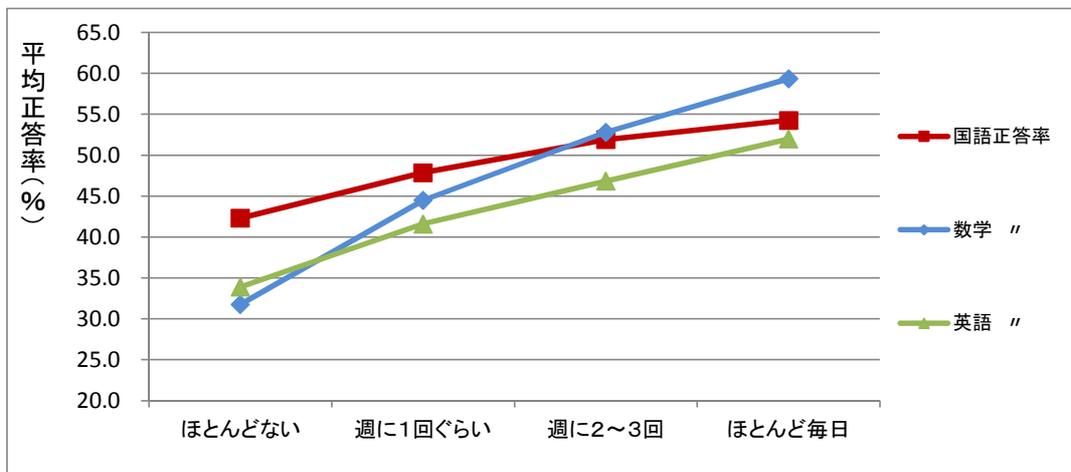
図22 宿題・課題が課される頻度と平日の家庭学習時間(2年生)



○ 宿題・課題が課される頻度と家庭学習時間には相関が見られる。宿題・課題がほとんど課されていない場合、1年生では約半数の生徒が、2年生では60%以上の生徒が家庭学習を行っていない。生徒の学習習慣の確立のためには、学校の教育目標や特色等を踏まえながら、宿題・課題を適宜課す必要があると考えられる。

図23 宿題・課題の頻度と正答率

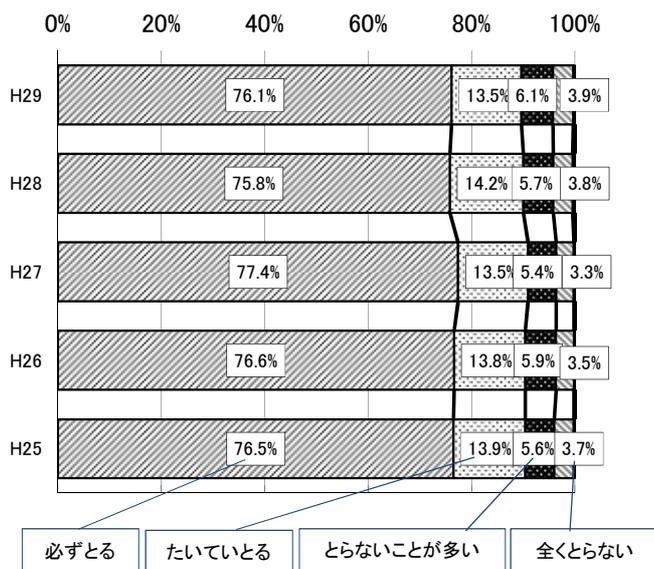
→ 【Q8】 学校からどのくらいの割合で宿題・課題が出されていますか



○ 宿題・課題をほとんど毎日課している場合とほとんど課していない場合の各教科の正答率を比較すると、国語は12.0%、数学は27.7%、英語は18.1%の差が見られる。授業での学びを生徒一人ひとりにしっかりと定着させるためには、授業内容や生徒の理解度を踏まえながら、効果的に宿題・課題を課す必要がある。

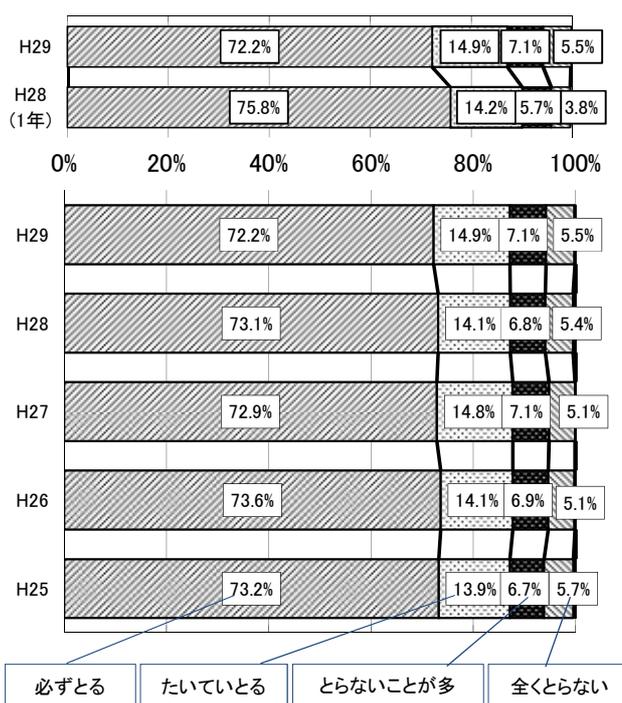
(7) 朝食摂取の習慣(【Q15】)

図24 朝食摂取習慣(1年生)



- 朝食摂取の習慣がほぼ身につけている割合は9割。
- 「とらないことが多い」の割合がやや増加。

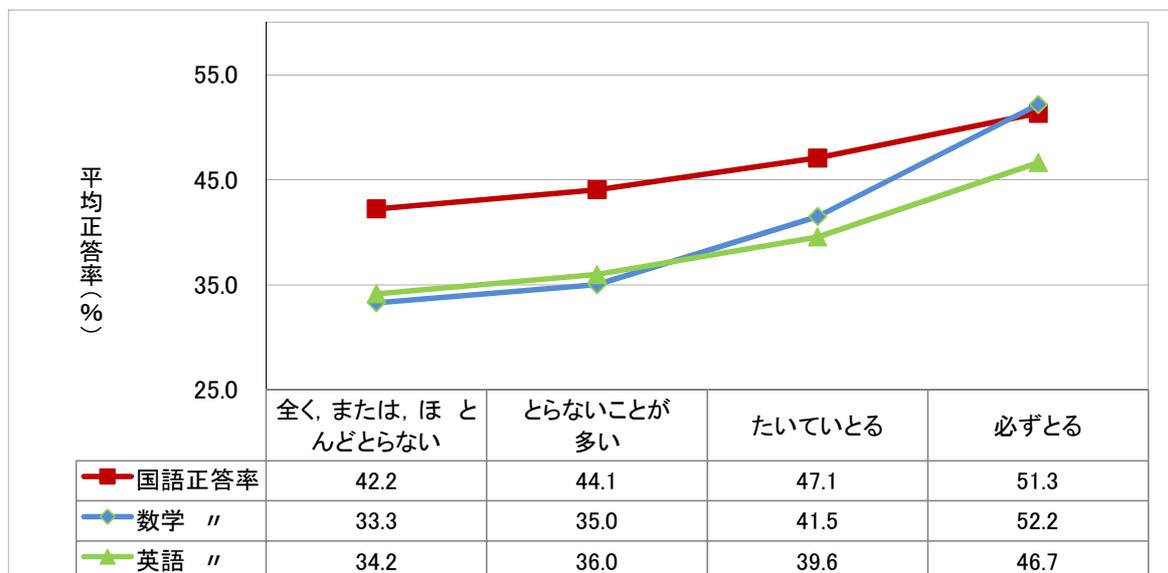
図25 朝食摂取習慣(2年生)



- 朝食をとらない割合が1年時より増加。

図26 朝食摂取の習慣と正答率

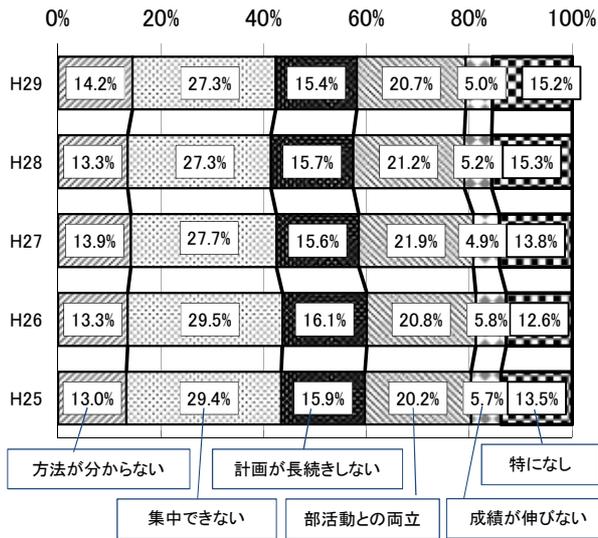
【Q15】 学校に行く前に朝食をとりますか



- 朝食をきちんととっている生徒ほど、各教科の正答率は高くなる傾向が見られることから、朝食摂取習慣には注意が必要である。
- きちんとした食生活の習慣化が大切である。

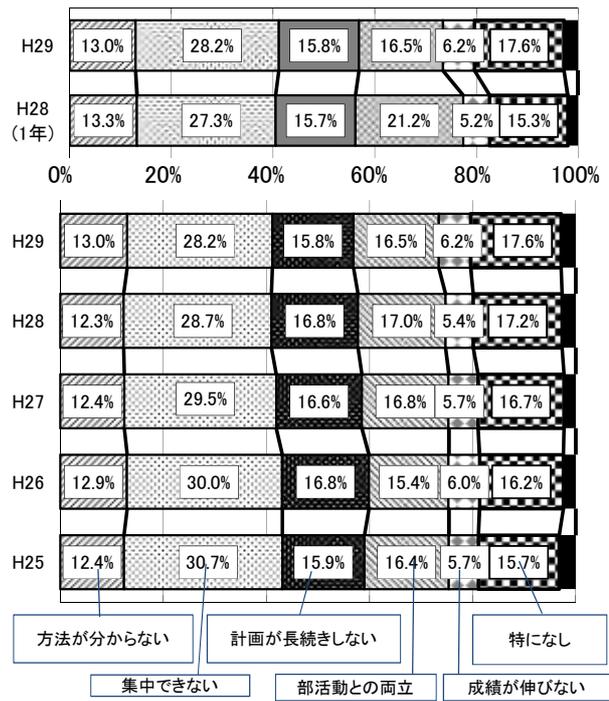
(8) 家庭学習をする上での悩みと平日の生活(【Q14】、【Q17】)

図27 家庭学習をする上での悩み(1年生)



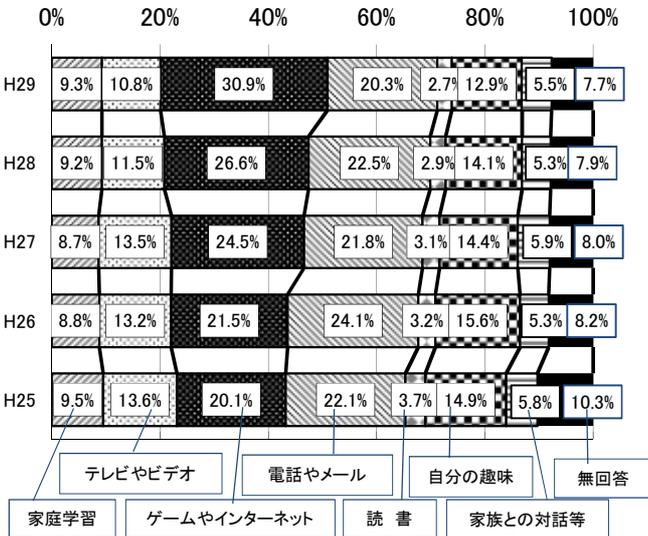
- 「集中できない」が最も多い。
- 「方法が分からない」の割合が増加。
- 「部活動との両立」は割合がやや減少。

図28 家庭学習をする上での悩み(2年生)



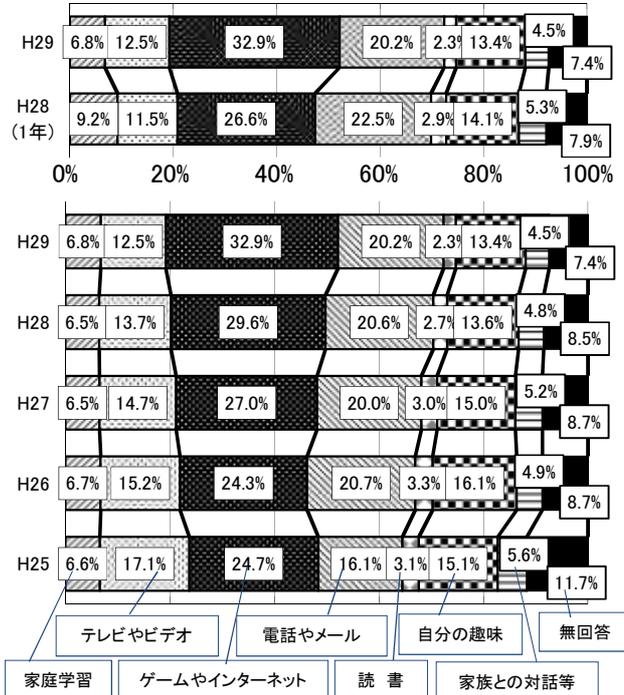
- 「部活動との両立」は1年時より減少。
- 「成績が伸びない」はやや増加。
- この傾向については昨年と同様である。

図29 平日に最も時間をかけていること(1年生)



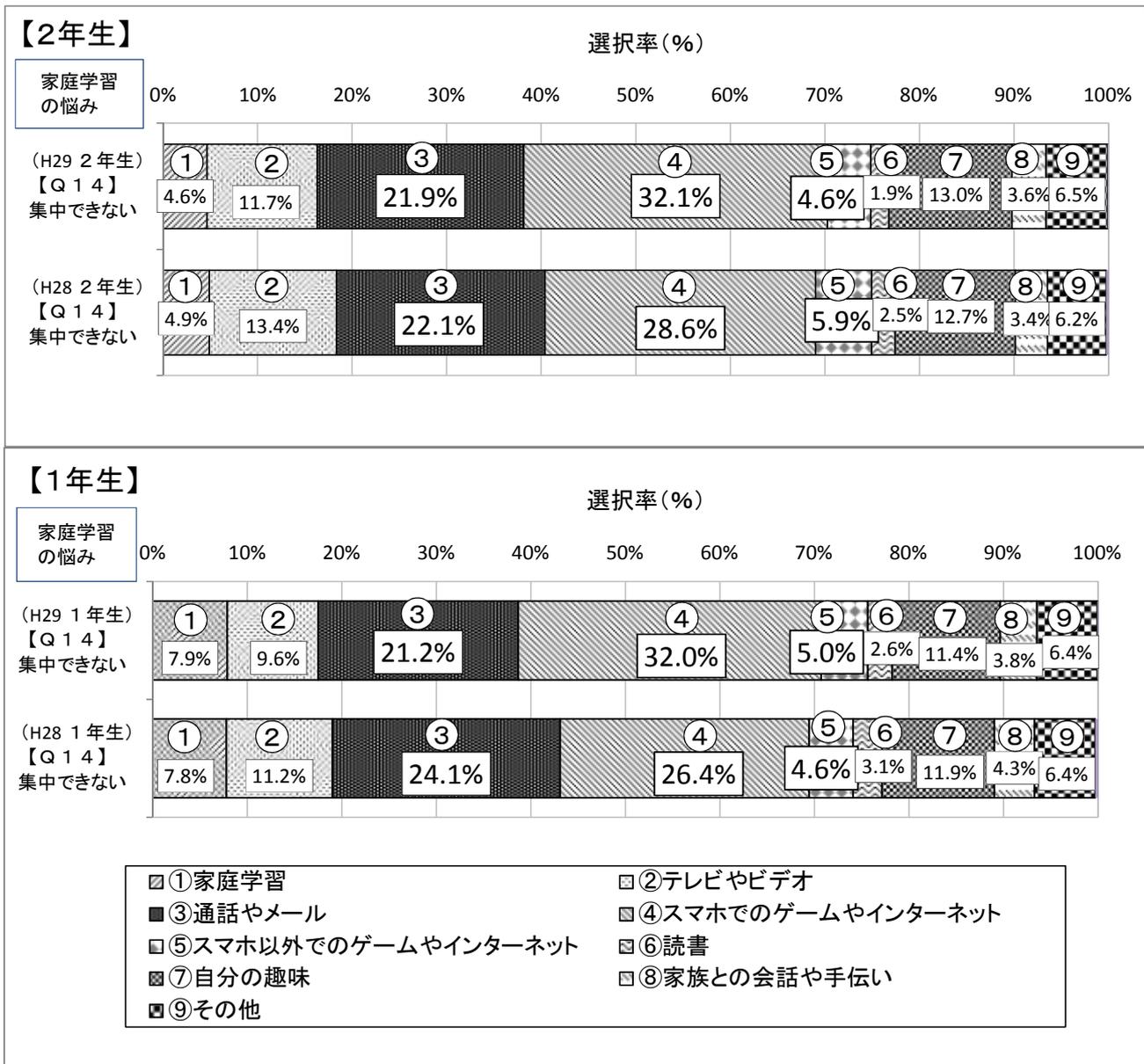
- 「ゲームやインターネット」が急増。4年前から見ると、10%以上の増加である。
- 「テレビやビデオ」、「読書」が減少。
- 「家庭学習」「家族との対話等」の割合はほぼ変わらないが、「テレビやビデオ」「電話やメール」「読書」「自分の趣味」がそれぞれ減少傾向にあり、個人的な時間の使い方や楽しみ方に変化が見られる。

図30 平日に最も時間をかけていること(2年生)



- 「家庭学習」の割合は前年度からは横ばい、1年時よりは減少。
- 「ゲームやインターネット」が30%超。
- 1年時からの「電話やメール」の減少については、SNS(インターネット)利用増も考えられる。

図31 悩みが「集中できない」生徒の、平日の生活状況(【Q14】、【Q17】)

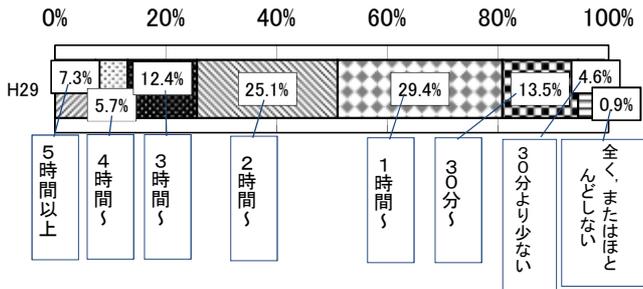


ネット依存的な傾向が、家庭生活や学習活動に影響

- 1年生、2年生ともに、家庭学習をする上での悩みとして、学習に「集中できない」と回答した生徒の割合は約3割で、最も多い。
- そのうち、平日に、家で最も時間をかけていることが、スマートフォンや携帯電話でのゲームやインターネットと回答しており、30%を超えている。
- このことについては、前年度よりも大幅に増加している。【Q17】の「平日に最も時間をかけていること」の回答状況でも指摘しているが、4年前と比べると10%以上増加していることから、ネット依存的な傾向が、家庭生活や学習活動に影響を及ぼしていることがうかがわれる。今後、家庭とも連携した対策が必要である。

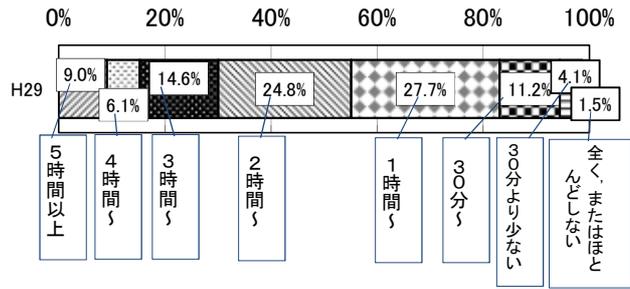
(9) 携帯電話等の使用時間と使用する場面(【Q18】、【Q30】)

図32 平日の使用時間(1年生)



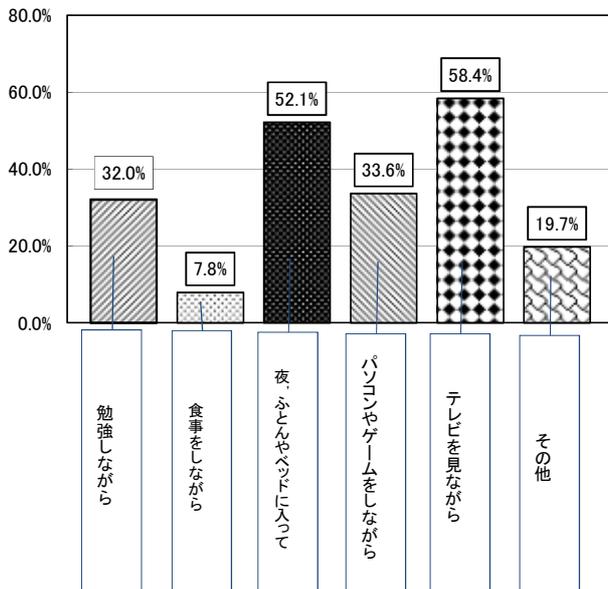
- 1日2時間以上スマートフォンや携帯電話を使用している割合は50%を超えている。
- 3時間以上使用している割合は25%超。

図33 平日の使用時間(2年生)



- 1日2時間以上スマートフォンや携帯電話を使用している割合は50%を超えている。
- 3時間以上使用している割合は約30%。

図34 使用する場面(1年生)



- 「勉強しながら」の割合が30%を超える。
- 「テレビを見ながら」が最も多く、「夜、ふとんやベッドに入ってから」とともに50%を超えており、学習習慣や生活習慣の確立及び十分な睡眠時間の確保への影響が懸念される。

図35 使用する場面(2年生)

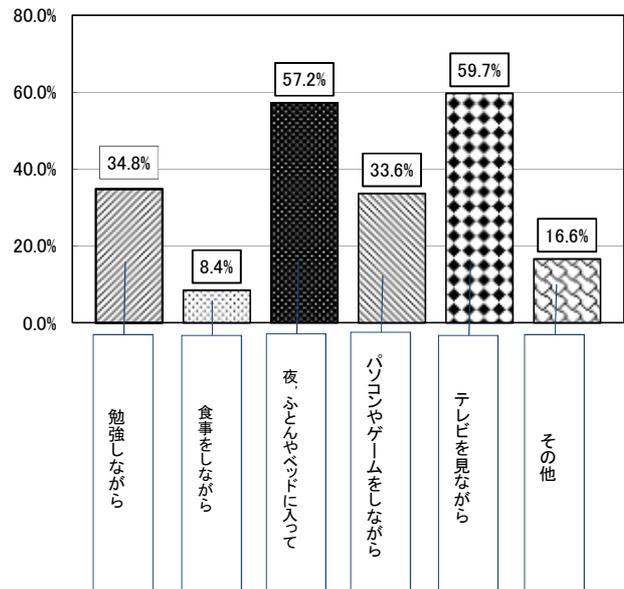


図36 使用時間と正答率

【Q18】 平日に、スマートフォンや携帯電話を勉強以外で使う時間はどのくらいですか

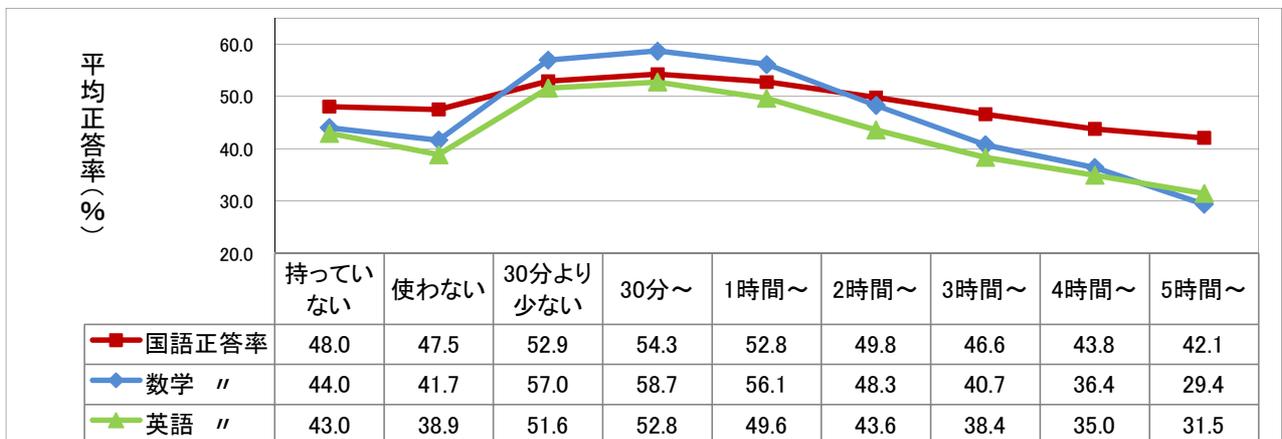
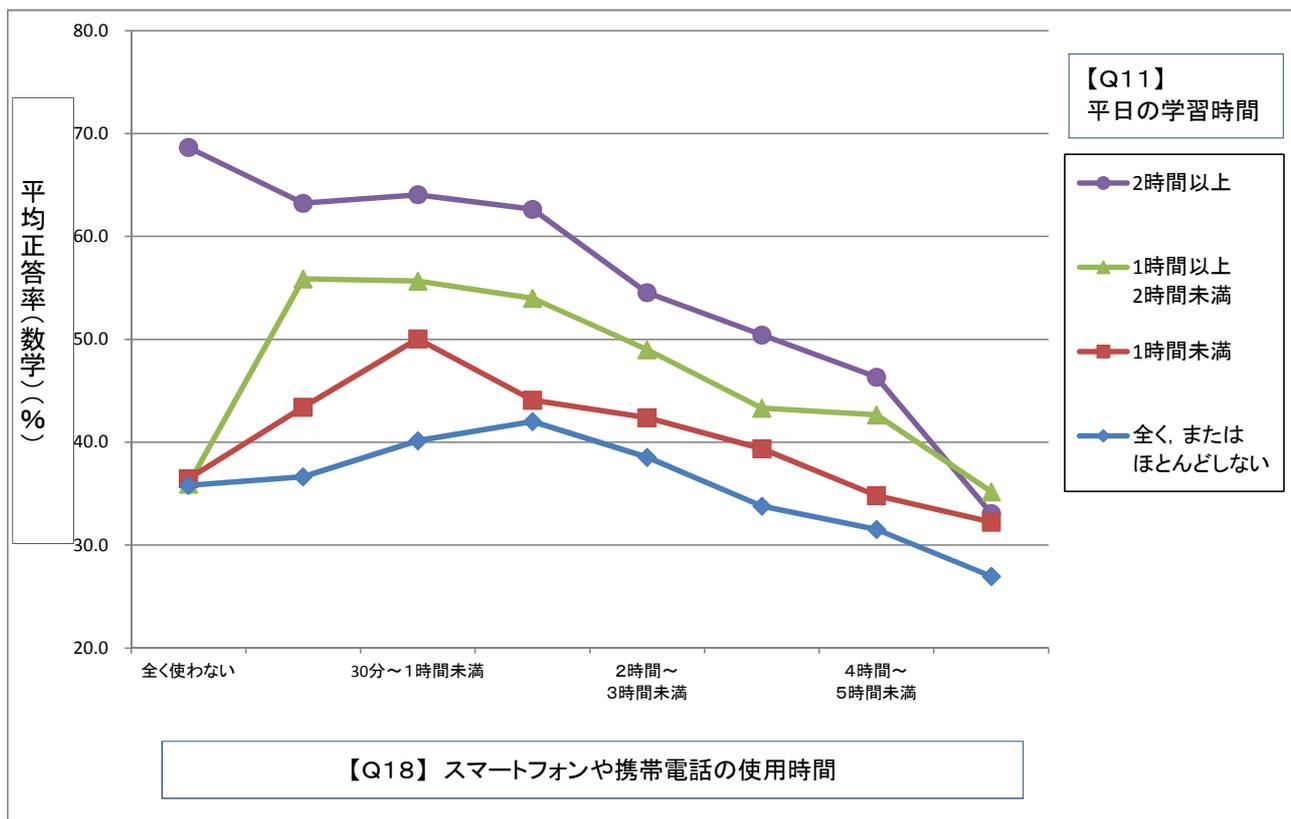


図37 学習時間とスマートフォン等使用時間, 正答率



「スマホは、勉強の効果を打ち消す!？」

- 同じ学習時間の場合、スマートフォンや携帯電話の使用時間が長くなるほど正答率は下降しており、使用時間が学習効果に影響を与えていることがわかる。
- また、「学習時間」によらず、スマートフォン等の使用時間が、1時間を超えると正答率が下降している。

※ 学習時間と正答率の間には相関がみられるが、学習時間を確保していても、スマートフォン等の使用時間が長いとその効果が大きく減少する。学習に集中して取り組むことが大切である。

4 「震災後の心身の健康」、「志教育」等に関する調査

I 震災後の心と体の安定について

(1) 毎日同じくらいの時刻に寝ている(生活習慣について)【Q33】

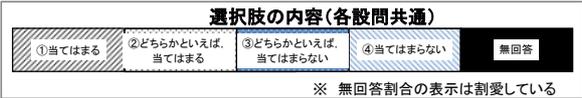


図38 【1年生】

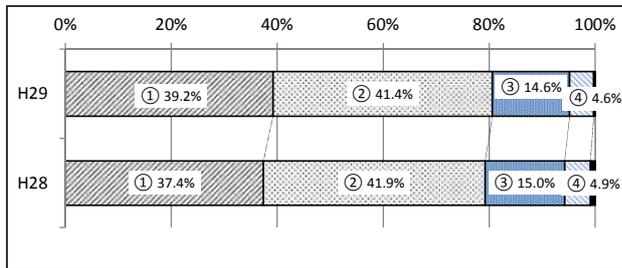
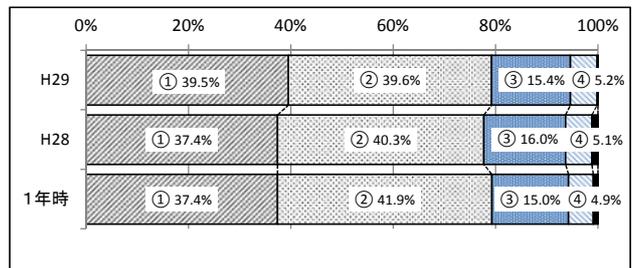


図39 【2年生】



○ 毎日同じくらいの時刻に寝ていると回答した割合は約80%。「当てはまる」と回答した割合が増加。

(2) 体調はよい(体調管理について)【Q34】

図40 【1年生】

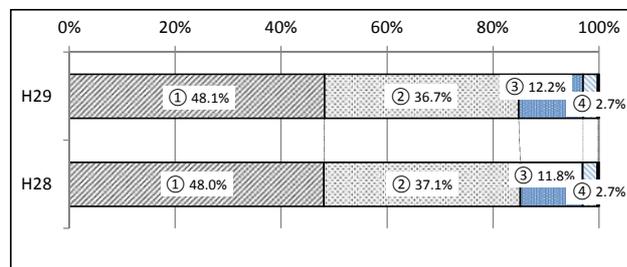
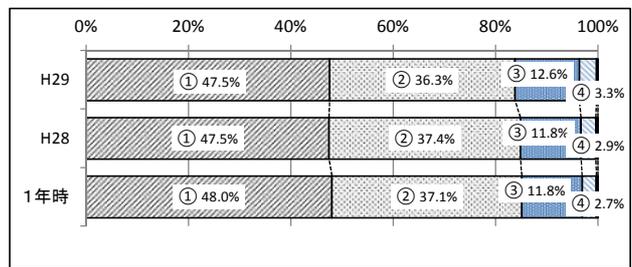


図41 【2年生】



○ 体調管理は概ね良好。体調はよいと回答した2年生の割合が前年及び1年時よりやや減少。

(3) 熟睡ができています(睡眠について)【Q35】

図42 【1年生】

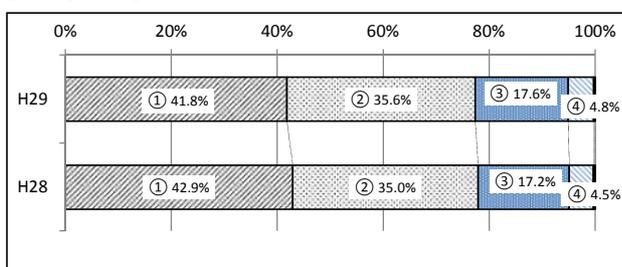
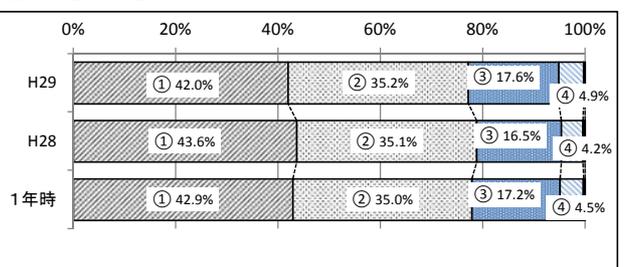


図43 【2年生】



○ 熟睡ができていますと回答した割合は約80%だが、前年度比では減少している。

II 震災後の学校生活について

(1) 学校生活に充実感や満足感を感じている(学校生活について)【Q36】

図44 【1年生】

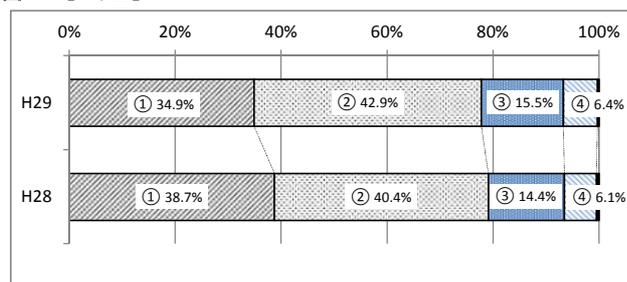
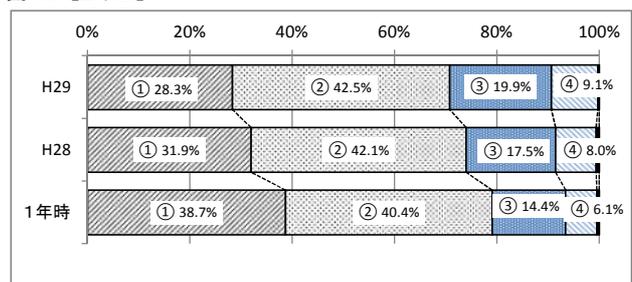


図45 【2年生】



○ 充実感や満足感を感じていると回答した割合は、前年度比及び1年時との比較のどちらにおいても減少。
○ 2年生で充実感や満足感を感じていない生徒の割合は約20%と大きい。

(2) 集中して勉強できている(勉強について)【Q43】

図46 【1年生】

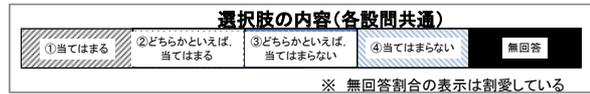
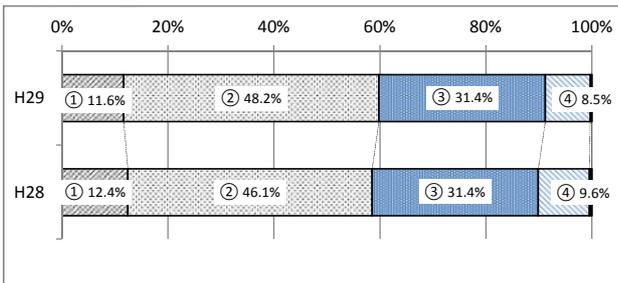
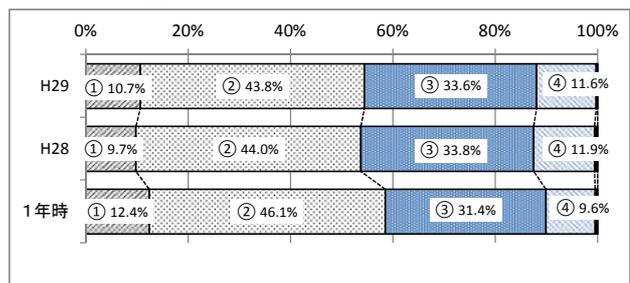


図47 【2年生】



○ 集中して勉強できていると回答した割合は、2年生で前年よりやや増加、1年時よりは減少。1年生ではやや増加。

(3) クラスや学校の行事等に積極的に取り組んでいる(はたす)(学校行事について)【Q58】

図48 【1年生】

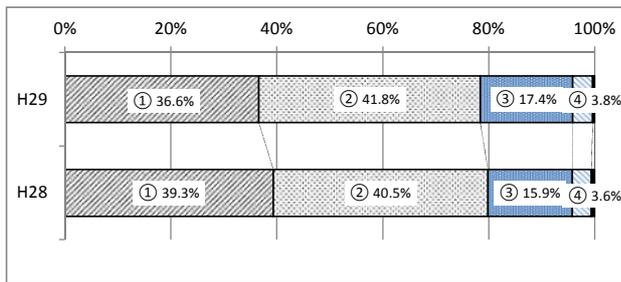
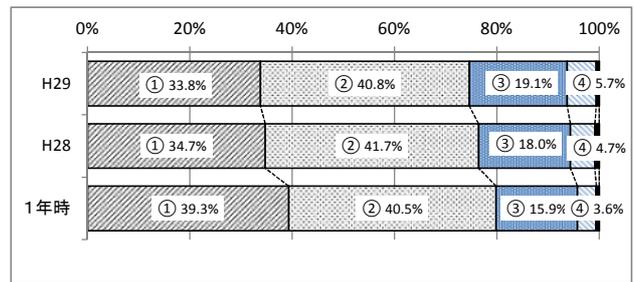


図49 【2年生】



○ 75%程度が積極的に取り組んでいると回答。「当てはまる」と回答した2年生の割合は1年時より減少。

Ⅲ 「志教育」に係る意識の変化について1

(1) 人が困っている時は、進んで助けるようにしている(かかわる)(他者理解について)【Q38】

図50 【1年生】

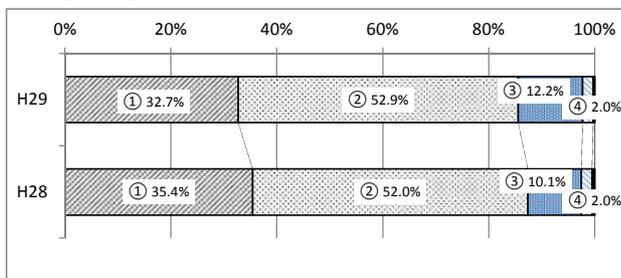
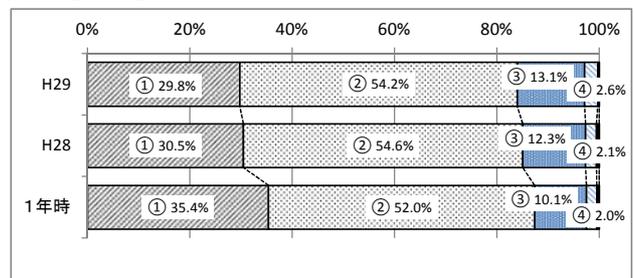


図51 【2年生】



○ 人が困っている時は、進んで助けるようにしていると回答した割合は前年より減少したものの80%を超えた。

(2) 人の役に立つ人間になりたいと思っている(もとめる)(志について)【Q47】

図52 【1年生】

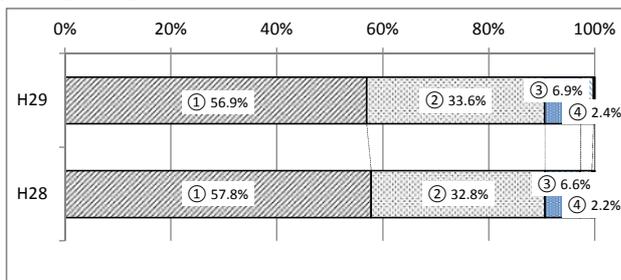
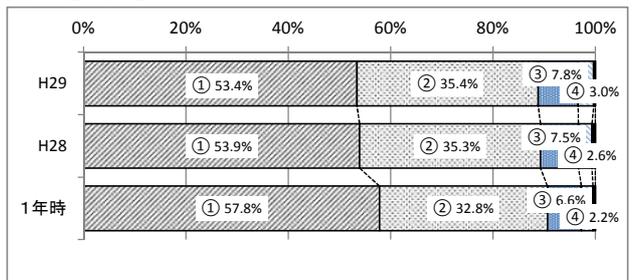
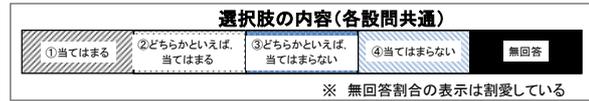


図53 【2年生】



○ 人の役に立つ人間になりたいと回答した割合は90%程度。2年生では、1年時よりやや減少。

IV 「志教育」に係る意識の変化について2



(1) 自分の個性や適性が分かっている(もとめる)(自己理解について)【Q50】

図54 【1年生】

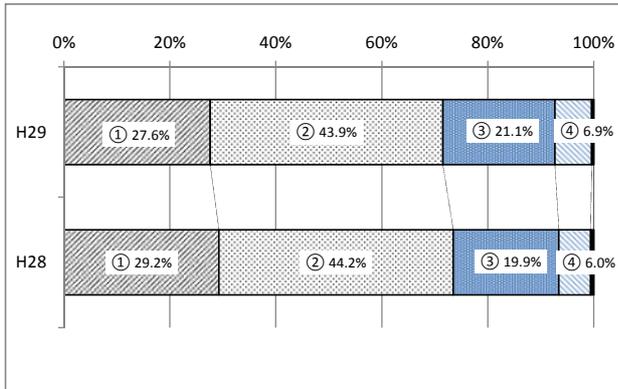
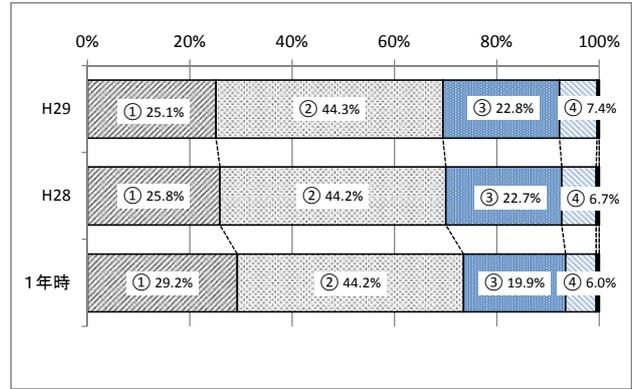


図55 【2年生】



- 自分の個性や適性が分かっていると回答した割合は70%程度。
- 「当てはまらない」と回答した割合が約20%と大きい。

(2) 働くことの意義を理解している(はたす・もとめる)(勤労観・職業観について)【Q55】

図56 【1年生】

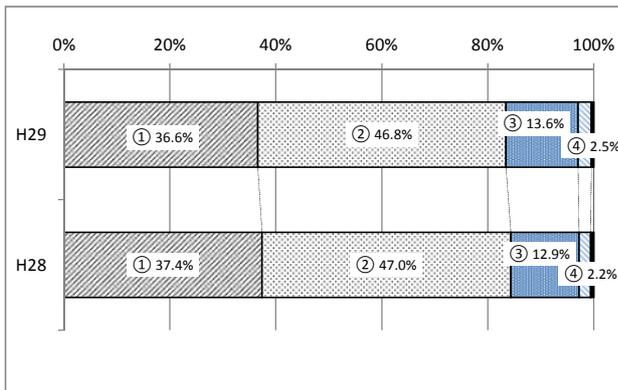
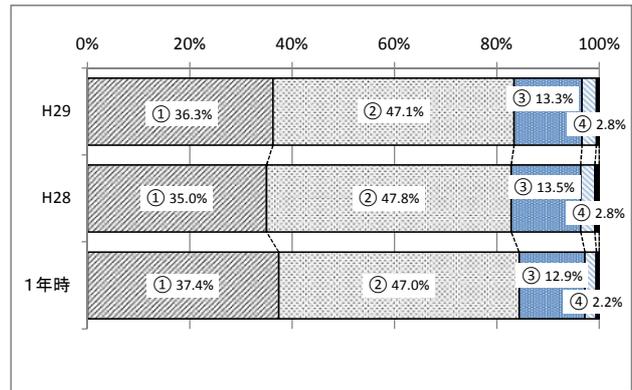


図57 【2年生】



- 理解していると回答した割合は80%超。2年生では前年よりやや増加したものの1年時よりはやや減少。

(3) 自分の役割に責任を持って行動している(はたす・もとめる)(有用感について)【Q57】

図58 【1年生】

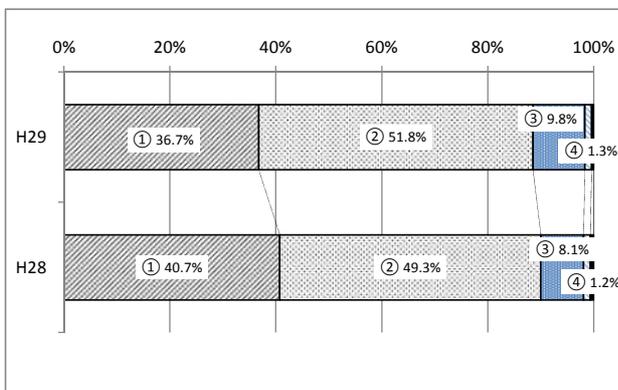
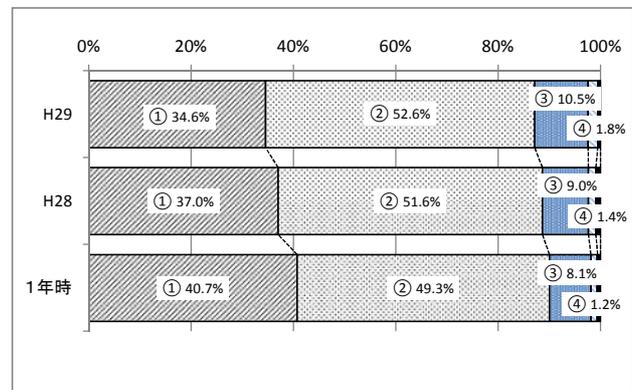


図59 【2年生】



- 約90%の生徒が自分の役割に責任を持って行動していると回答。
- しかし、責任を持っていると言い切れない生徒がやや増加。

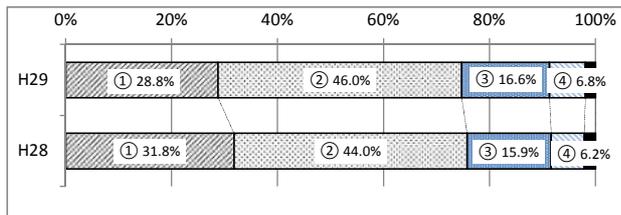
V 高校入試について

選択肢の内容(各設問共通)				
①当てはまる	②どちらかといえば、当てはまる	③どちらかといえば、当てはまらない	④当てはまらない	無回答

※ 無回答割合の表示は割愛している

(1) 高校入試(学力検査)は、学習意欲の喚起や学習習慣の形成に役立っている(学力向上について)【Q44】

図60 【1年生】



○ 高校入試(学力検査)は、学習意欲の喚起や学習習慣の形成に役立っていると回答した割合は前年同様の75%程度。

入試制度のねらい

我が県の入試制度は、入試を通じ、中学生が、高校生活や、その先の自らの将来について展望する契機とすることで、受験生の主体的な進路選択と目的意識の明確化を促し、ひいては、一人一人の学校生活の一層の充実につなげることをねらいとしている。

○ 調査結果からは、各高校の進める特色づくりや、これを踏まえた出願基準の設定、学力検査の導入等の制度により、中学生の主体的な進路選択と目的意識の明確化、学習意欲の喚起等、新入試制度のねらいに沿った効果が表れている。

Ⅲ 学力向上に向けた今後の取組

生徒が安心して学校生活を送り、学習意欲や自信を持たせるためには、教師と生徒、生徒同士の好ましい人間関係を築くとともに、分かる・できる授業づくりを積み上げていくこと、そして、家庭とも連携しながら、学習習慣や生活習慣について点検し、改善を図っていくことが必要です。

○「分かる授業」の実践

授業理解度は上昇傾向にあるが、授業が理解できないとする生徒も半分程度いる。また、学びなおし等、早期からのつまずき対策も必要である。誤答分析等調査結果を十分活用し、授業改善と授業力向上に努める。

○家庭学習時間の確保

家庭で2時間以上学習している生徒の割合は、2割弱にとどまっている。適度な量の宿題を課したり、学習内容の定着を確認するための小テストを実施したりすることは、学習習慣の確立にもつながり有効である。また、生徒の実情により、学習記録簿の活用等とあわせると効果的である。

○「志教育」の充実

社会人講師を招いての講演会やワークショップ等の啓発的な体験活動を教育計画に取り入れることは、社会や職業に対する認識を深め、自分が将来どのように社会に参画していくかを考えさせる上で有効である。また、その後の学習意欲や学習態度の改善にも効果が期待できる。

○生活習慣の改善、家庭と学校との連携

食事や睡眠等の生活習慣の乱れや、携帯電話やスマートフォン、ネット等への依存的傾向が、学習や生活に支障を及ぼす等の影響が出ている。家庭でも、生活習慣や携帯電話、スマートフォン等の使用時間や使用方法等について話し合う機会を設けるなど、家庭と連携した対策を講じていく必要がある。

○生活習慣の改善、自己教育力を高める取組

教科「情報」や関係機関と連携した講演会等を通じて、ネット社会の利便性に併存する危険性についての正しい理解を促すとともに、生徒が、身の回りにある様々な課題について、自ら考え、自ら学ぶ機会を設けるなど生徒の自己指導力・自己教育力を高める機会を設けていく。

